**ロボティックライフサポート研究室**

**III－10**

**卒業論文概要原稿の書き方**

(1 line space)

**指導 東京 太郎 教授，都市 次郎 准教授**

**0010345 大学 三郎**

(1 line space)

1. **はじめに**

この文書は，機械システム工学科で定めた卒業論文概要原稿の基本的な書式と作成要綱をまとめたものである．この文書で定められた基準は，原稿作成において，すべての著者が必ず守るべき最低限の基準である．よって，著者はよく内容を確認し，細かい部分にも注意して，原稿を作成すること．

ただし，この文書によって原稿作成のすべての項目について定めることは困難である．これは広範囲にわたる本学科の各研究分野の論文作成基準が少しずつ異なるためであり，本文書において定義されていない部分については、各分野で標準とする作成方法に従うこととし，必ず研究室ごとに統一した書式で原稿を提出するように．

(1 line space)

1. **作成要綱**
   1. **利用環境**

原稿は，Word，LaTeXなどの文書作成用ソフトウェアを利用して作成すること．推奨環境は，Word 2010，LaTeX2eであり，それらのテンプレートは本学科Webサイトに用意されている．それ以外の環境を利用する場合は，3章に指定された原稿書式に従って作成すること．

* 1. **提出方法**

作成した原稿は，Adobe Acrobat DistillerなどのPDF作成ソフトウェアを利用し，PDF形式のファイルへ変換して提出すること．ファイルサイズは3 MB程度を上限の目安とし，PDFへ変換する際には，原稿内で使用した数式，記号などが正常に表示されるよう，PDFファイルへフォントを必ず埋め込むこと．提出先は，該当年度の卒業論文準備担当教員とする．提出日やその他の詳細については，本学科Webサイトを参照しなさい．

(1 line space)

1. **原稿書式**
   1. **原稿サイズ**

原稿はA4サイズ2ページとし，上マージンは20 mm，左右マージンは18 mm，下マージンは26 mmとする．

本文は2段組，コラム幅80 mm，コラム間隔8 mmとする．10 ptの文字を基準とし，1行最大25文字（両端ぞろえ），50行（行送り14 pt），2段組（2500文字）とし，フォントは原則として和文は明朝体，英文はTimes New Roman体を使用すること．

* 1. **題名・著者名**

研究室名は1行目左端に10 ptで，概要番号は研究室指定のローマ数字と論文番号をハイフンでつなぎ，2行目に左ぞろえ10 ptで，題名は3行目に14 pt，中央ぞろえで記載する．

また，指導教員名・著者名は題目から1行空けて，3行以内，10 pt，右ぞろえで記入する．著者名の前には学籍番号を付記し，フォントはすべてボールドゴシック体とする．

なお，研究室ごとのローマ数字は以下の通りであり，論文番号は，研究室指導教員から指示された番号を記載すること．

I 熱流体システム研究室

II 高機能機械制御研究室

III ロボティックライフサポート研究室

IV 強度設計システム研究室

V 計測電機制御研究室

VI 宇宙システム研究室

* 1. **本文・章題**

本文の書き出しは学籍番号・著者名から1行空けて始め，それ以外の書式は3.1節を参照すること．章・節の題名は10 pt，左ぞろえでボールドゴシック体とし，章の間は1行空けて書き始める．

本文中では，句読点に全角コンマ（，）と全角のピリオド（．）を利用すること．また，英数字はすべて半角表記とすること．

* 1. **図表・数式**

図表中の文字は，鮮明に見えるようにその大きさに注意し，基本として英文表記とすること．また，図表は，本文中の説明と離れない位置に置き，図や表それぞれ，あるいは図表と本文は1行以上の間隔を空けて配置すること．図表の幅は，原則として1段の幅（80 mm）以内に収め，大きくなる場合は原稿の2段組の幅の中に収めること．なお，図表の左右には本文を回り込ませてはならない．

写真は図として扱い，印刷時に解像度が十分得られるように注意すること．また，概要集は白黒印刷で配布されるため，印刷時の状況を考慮した判別しやすい図表・写真を掲載するように．

図見出しは図の下に，表見出しは表の上に英文で記載し，数式は式番号を付記すること．また，これらを本文中で参照する場合には，それぞれFig. 1，Table 1，(1)のように表記すること．

* 1. **参考文献**

参考文献は9 ptで表記し，文献番号は[1]，[2]，…とすること．引用の際には，文献[1]のように記載すること．

1. **その他の注意点**
   1. **卒業論文に関する研究成果の記述**

現時点において，著者の卒業論文に関する，各分野の学会誌に掲載された学術論文や講演論文集がある場合には，必ず原稿の最後に研究成果として記載すること．書式は参考文献と同じ表記方法とする．

* 1. **研究室内での書式の統一**

近年，基本的な書式が統一されていない概要原稿が目立つ．基本書式については、本文書の指示内容を守り，定められていない細かな部分については、各研究分野における規則に従って作成することで，研究室ごとに書式の整った美しい概要原稿を提出してもらいたい．